



2015 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第3戦

SUPERBIKE RACE in MOTEGI

TOHO Racing with MORIWAKI レースレポート

JSB1000クラス #104 山口 辰也

5月30日(土曜日) 天候:晴れ 路面:ドライ

公式予選/1'49"998 5番手

5月31日(日曜日) 天候:晴れ 路面:ドライ

決勝/7位(23周)

開催地:栃木県・ツインリンクもてぎ(1周=4.801379km)

入場者数:11,800人(土・日合計)

第2戦オートポリスでは、オリジナルのガソリンタンクを投入したことが功を奏し着実にマシンセットは前進。前週に行われた事前テストでツインリンクもてぎに合ったセットアップを進めレースウィークを迎えていた。今回は、仕様違いのフロントフォークを投入。金曜日の1本目に、いきなり自己ベストとなる1分49秒363をマーク。午後は霧雨が降り、中途半端なコンディションだったこともあり走行を見合わせたが初日は総合で2番手と好発進！ もちろんHonda勢最上位だった。

公式予選が行われた土曜日は暑い一日となった。JSB1000クラスは、ノックアウト方式で行われたが、10台が進出するQ2は、初めて“TOP10サバイバル”で争われた。これは10台がタイムアタックし、毎週一番遅かったライダーが脱落し、9周目に一番速かったライダーがポールポジションという新たな試みだった。

Q1は、参加台数の関係で2グループに分かれて行われ、B組で4番手につけた山口は総合7番手で“TOP10サバイバル”に駒を進めた。

初開催となる“TOP10サバイバル”は、単に速く走れることに超したことはないが、タイヤマネジメントも重要になってくる。しかし、TOP10だけに選ばれたライダーばかり。メーカー直系のチームがほとんどだけに山口に余裕はない。

10台が一斉にコースインし、2週のウォームアップ走行を行い、各車はタイムアタックに入る。山口は1周、2周、3周、4周と勝ち残り、勝負どころと見た5周目に1分49秒台をマーク。6周目も1分50秒038という好タイムをマークしたが周りの方が速く5番手が確定した。それでも名門ヨシムラ、そしてHonda勢で最上位と大健闘の“TOP10サバイバル”だった。

決勝レースは23周という長丁場で争われた。日曜日も5月とは思えないほどの暑さに見舞われた。気温が上がったことで、ブリヂストンタイヤの担当と話し合った結果、土曜日まで使っていたタイヤだと23周はもたないと言われ、ぶっつけ本番でタイヤを変更することになる。

今回のスタートは、あまりクリーンなものではなかった。スタート直後に接触があり、1コーナーへのポジション取りが大混戦となる。山口は、5番手で1コーナーをクリア。オープニングラップで一つ順位を上げ、4番手で2周目に突入して行く。後方からは、野左根選手が迫り、3周目にパスされてしまう。変更したタイヤのフィーリングを確かめながらの走行となっており、思うようにペースを上げられないでいた。そんな山口の背後には、渡辺一樹選手、津田選手が迫り11周目には7番手に順位を落としてしまう。そこからは単独走行となった山口は、後続とも差があったことから着実にゴールを目指し7位でチェッカーフラッグを受けたのだった。



JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

「事前テストからセットアップし、レースウイーク初日に仕様違いのフロントフォークを初めて使いましたが気温が低かったこともあり自己ベストを更新することができました。土曜日は暑くなりましたが、マシンのフィーリングはよくサバイバル予選でもHonda最上位になることができました。しかし、決勝は 23 周と長かったこともあり、ぶっつけで違うタイヤを履くことになったのですがフィーリングが違い過ぎてペースを上げることができずに悔しいレースになってしまいました。ただ着実に前に進んでいますし、次戦、そして鈴鹿 8 耐につながるレースになったと思います」

チーフメカニック 戸井田剛コメント

「レースウイークを通して、ラップタイムは昨年よりも上がりましたが、決勝日当日の気象状況にマシンを合わせることが出来ず、悔しいレースとなってしまいました。次戦 SUGO は、さらに調整を進めていきたいと思います。また、SUGO 戦はセミ耐久レースでもあるので、鈴鹿 8 耐で良いレースが出来るよう、頑張りたいと思います」

総監督 福間勇二コメント

「金曜日の練習走行から調子良く、ラップタイムもよかったので、調整を詰め決勝日に臨みましたが、予想以上に気温が上がり、思うような走行が出来ず悔しいレースとなりました。次戦 SUGO はセミ耐久レースとなりますが、その後 8 耐もありますので、スタッフ一丸となり良いレースが出来るよう頑張っ参りたいと思います」



株式会社 TOHO
TOHO Racing with MORIWAKI
担当 野口